

被災地復興のビジョンがなぜ必要なのか： 人々の期待と地域のダイナミズムのモデル

横松 宗太¹・角元 惠理歌²

¹京都大学防災研究所

E-mail: yoko@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp

²京都大学工学研究科

震災後、復興マスタープランを早急に策定する必要性が指摘されてきた。被災地の将来の方向性が見えなければ、住民や企業は立地すら決めることができない。人々や企業の間には外部性が存在する地域経済では、個々人の合理的行動の連なりがもたらす「必然的な帰結」でさえ、複数の帰結がありえる。このようなとき、人々がどのような復興のビジョンを共有するかは、複数の「起こり得る将来」からどの将来が選ばれるかを決定する。本発表では、「History vs Expectation」モデルを応用して、人々の「期待」が被災地の将来を決める状況と、過去の「歴史」が将来を決める状況について分析する。また、インフラ整備の幾つかの効果について指摘する。

キーワード：復興，期待，歴史，外部性，複数均衡